

ぶんかざいまるちなび

No.50

文化財 知 ナビ

このニュースレターは、「文化財に親しむ機会の提供に関する事業」の一つとして、身近な文化財情報をはじめ、文化財を活用した事業などの紹介を行っています。

ぜひ学校教育や生涯学習の場で広くご活用ください。

「日本遺産」ってなんだろう？

「日本遺産」は、地域にある古い建物や大昔の遺跡、めずらしい天然記念物、毎年行われるお祭など、これからも残していきたい文化財を一つにまとめ、その地域の魅力を語る「ストーリー」にして、多くの人に知ってもらったり、見に来てもらったりするものです。

これまでに、全国では104件、北海道では5件のストーリーが、日本遺産として文化庁から認定されています。

41号(平成30年12月18日発行)では、江差町の、ニシン漁でにぎやかだった町並みを扱ったストーリー「江差の五月は江戸にもないーニシン繁栄が息づく町ー」、函館市・松前町・小樽市・石狩市などによる、日本海で活躍した北前船にまつわるストーリー「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」、上川町など12のまちによる、カムイとともに生きる上川アイヌのストーリー、「カムイとともに生きる上川アイヌ～大雪山のふところに伝承される神々の世界～」の3つのストーリーを紹介しました。

今回は、41号発行の後に、新たに認定された2つのストーリーを紹介します。

1つ目は、令和元年5月20日に認定された、赤平市など12のまちによる、北海道の産業の発展にまつわるストーリー、2つ目は、令和2年6月19日に認定された、標津町など4つのまちによる、人と自然と鮭にまつわるストーリーです。

(※この紹介は、文化庁から認定されたストーリーを、小・中学生向けに言い換えたものです。)

本邦国策を北海道に観よ！～北の産業革命「炭鉄港」～

「北海道」という名称は、明治時代に名付けられたものです。北海道と名付けられた後に、北海道の産業が発展していく過程では、「石炭」(炭)・「鉄鋼」(鉄)・「港湾」(港)とそれらをつなぐ「鉄道」(鉄)、つまり「炭鉄港」が、大きな貢献を果たしました。



【関連施設群】(写真提供：炭鉄港推進協議会)

北海道の繁栄の足跡は、空知地域の石炭鉱山や鉱山施設、室蘭市の製鉄工場、小樽市の港、そして各地の鉄道施設など、今でも多くの数が残っています。

北海道の人口は、100キロメートル内に位置する「炭鉄港」を原動力として、約100年で100倍にもなりました。

急成長と衰退、そして新たなチャレンジを描くダイナミックな物語は、北海道の新しい魅力として、関連する施設を訪れる方々の胸に、深い思いと新たな価値観を生み出します。

「鮭の聖地」の物語～根室海峡一万年の道程～

根室海峡は、北海道で最も東にあります。根室海峡の沿岸の根室地域では、はるか一万年もの昔から、絶えず人々の暮らしが続いてきました。

人々が暮らしていく上で支えとなったものは、大地と海を行き来し、あらゆる生命の糧となってきた鮭でした。

根室地域では、毎年の秋、鮭が、川の流れをさかのぼり上流へと向かっていく、繰り返される自然の営みの中で、人と自然、文化と文化の間で、共存と衝突が起こりました。

根室地域で織り成された数々の物語と共に、海路、陸路、鉄道、道路という、根室海峡に続く「道」が生まれました。

一万年にも及ぶ時の流れの中で、鮭に笑い、鮭に泣いた根室海峡の沿岸は、今も、人と自然、そしてあらゆるものが鮭とつながる「鮭の聖地」です。



【鮭山漬け寒風干し】



【野付半島】



【標津遺跡群伊茶仁カリカリウス遺跡】

(写真提供：標津町教育委員会)

※ 全国の日本遺産を紹介するホームページもありますので、ぜひ見てみてください。

検索 「日本遺産ポータルサイト」 <https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/>

文化財ニュースレター 文化財まる知ナビ No.50

発行 令和2年9月3日 編集・連絡先 北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課

【お問い合わせはこちらへ】電話 011-231-4111 (内線) 35-620 メール kyoiku.bunka2@pref.hokkaido.lg.jp